

# かわさきの新たなランドマーク

## 川崎市内を一望できる展望ロビー・スカイデッキを公開



新庁舎は、震災対応にも優れ、大規模災害時にも市民への情報発信、生活再建・復興の中核拠点として役割を担います。



北東方面には、六郷河川敷や新宿に東京都庁、羽田空港の航空機離発着、東京タワーやスカイツリーなどが一望できます。



南東方向には、横浜ランドマークタワーやベイブリッジ、つばさ橋、また天気の良い日には富士山を一望することができます。

1938年に竣工した川崎市庁舎は、75年の歴史に幕を閉じ、新たに地上25階、地下2階、高さ約117mの新庁舎が誕生。

新庁舎25階には、地上110mの高さから市内を一望できる『展望ロビー・スカイデッキ』が設置され、市内は勿論、東京都内、羽田空港やスカイツリー、横浜ベイブリッジから富士山に至るまで眺望が楽しめます。どなたでも利用でき、入場無料。

【展望ロビー公開時間】

午前9時～午後9時まで  
(土日祝日含む)

※設備点検や悪天候時には展望フロアを閉鎖することがあります。

## 市民代表の議員が熱い議論を展開する議場



議員席後方の傍聴席は、100名が議会の進行を見ることができます。また、親子席が設けられ、小さいお子さんと一緒に安心して議会をご覧いただけます。



議場内「演壇」からの風景。代表質問や討論などおこなう時に使用されます。議場や委員会室では、市民生活に直結する様々な課題を活発に議論されています。

新庁舎23階・24階部分にある市議会議場は、各区選出の議員60人が市民の代表として、活発に論戦が繰り広げられています。

新議場では、新たに採決における押しボタン方式を採用し、大型スクリーンに各議員の賛否が色分けして表示されるなど、採決態度が鮮明になりました。



# せいじのみかた

2024年 vol.3

第3回定例会決算特別委員会総括質疑を行う



## 特集

論戦 高濃度PCB新たな発見に「認識が甘すぎる」と一喝  
視察 北海道PCB廃棄物処理施設事業概要説明調査

### 傍聴の流れ【動画】



「議会かわさき」広報キャラクターのおよよんが川崎市議会の傍聴の流れをご紹介します。

### 議会中継



開催中の会議および過去の会議をご覧になれます。

### 会議録検索システム



川崎市議会の本会議・委員会等の全発言を対象に言葉で検索できます。

川崎市議会議員  
文教委員会 委員

みつる  
飯田満



Profile

**第3回定例会決算特別委員会総括 総括質疑 10月4日**  
**高濃度PCB新たな発見に「認識が甘すぎる」と一喝**  
**～部分調査ではなく、全数調査が必要～**

**飯田満委員** PCB廃棄物適正処理に関連した質問を致します。残念ながら、PCB特措法で定めている処分期間が過ぎている。しかし、新たな高濃度PCBが行政施設から発見される事態が相次いでいる。特措法施行から23年、神奈川県PCB廃棄物処理計画の策定から18年、行政施設からも市内民間事業施設からも高濃度PCBが一つ残らず根絶されていなければならない時期にもかかわらず、あろうことか教育委員会事務局をはじめ、経済労働局、上下水道局、交通局から高濃度PCBが新たに発見されることは遺憾だ。

調査完了とする施設から高濃度PCBが発見される原因はどこにあるのか伺う。次に、3月5日の予算委員会で「もし4月1日以降、新たにPCBが発見された場合、どのような姿勢で対応に当たるのか」との問いに、当時の局長は「高濃度PCB廃棄物はないものと認識している」と答弁。また、先日の一般質問でも現環境局長は「高濃度PCB廃棄物はないものと認識している」と答弁を繰り返している。しかし、不安は的中した。7月25日に上下水道局PCB発見されたではないか。前局長、現局長の答弁と現状に整合性がないではないか。専門的技術・識見を有するJESCOの研修を修了した民間事業者による全庁・全数掘り起こし調査を実施すべきだ。見解を問う。

**三田村副市長** これまでの調査において、その調査後に発見される要因は、調査対象箇所の漏れ、PCB含有不含の誤った判断、調査記録が不十分などと考えている。昨年度の調査後の認識について、発見された局区以外からは新たな発見はなかったとの報告を受け、そう認識してしまった。現段階において新たに発見されたことは、あってはならないことと考えている。現在実施している再確認では、徹底的な再確認を指示し、環境局と関係局区がしっかり連携し対応します。

**飯田満委員** 「高濃度PCB廃棄物はないものと認識をし



小学校内の PCB 掘り起こし調査に向う

ている」という当時の環境局長、環境局長の答弁、一言で言うならば、認識が甘過ぎると言わざるを得ない。認識を改めるべきだ。そして、今実施している「再確認」調査、いつまでに集約する考えなのか。

**環境局長** 現在、再確認を行っている調査について、一部の施設では業務委託を行うと聞いている。年内12月をめどに集約をしたいと予定している。

**飯田満委員** 今、全庁的に再調査をおこなっている。部分調査ではなく、全数調査を意識して調査をしてほしい。そうしないとまた（高濃度PCBが）発見される始末になる。そうなったら皆さんが答弁に困ることになる。1度、全数調査をやっていくべきだ。と要望する。



質問者席から市幹部、各局長と対面で議論

**北海道PCB廃棄物処理施設事業概要説明調査と現地視察**



ポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」という）は、昭和43年（1968年）に発生した「カネミ油症事件」の原因物質、西日本一帯で被害を発生させた日本最大の食品公害事件で、汚染された米ぬか油を摂取した被害者をはじめ、被害者から出生した次世代や次々世代からの影響と被害報告がされている。国は化学的にPCBが有害物質であることを確認し、その後、ストックホルム条約で採択し、世界規模で根絶する動きを見せると同時に、国内でも平成13年に「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」を制定し、基本計画に基づき全国的に高濃度PCB及び低濃度PCBの根絶に向け、事業に取り組んでいる。

全国5か所（北九州・大阪・豊田・東京・北海道）に設置されたPCB処理施設は、基本計画に基づき、順次、北九州・大阪・豊田処理事業所がその役割を終えている。今回、川崎市の高濃度PCB（安定器等）を処理する北海道処理施設を訪問し、施設の事業概要説明と処理施設の現場を視察。同施設は、計画的処理完了期限を終え、2年間の事業終了準備期間（令和8年3月31日）迎えている中で、政府、環境省は施設の稼働延長は無いと言及してい

る中で、今視察でも、その事案についての確認ができた。また、その後の高濃度PCBの処理について大きな課題を残している。PCB処理の今後の行方に注目して行かなければならない。



安定器を廃炉前にドラム缶へ移し変えられるヤード